

第 2 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.02
	縄文弥生			

[問題 1]

右の A、B の絵は、縄文と弥生の 2 つの時代の人々の生活のようすを示している。次の各問いに答えよ。

(1) 次の①、②は、A と B のどちらの時代に関係が深いか。

① 土偶 ② 銅鐸

(2) A、B の時代に使われていた土器の名をそれぞれ書け。

(3) A から B の時代にかけて、食料を得る方法はどうに変わったか、この絵を参考にして簡潔に説明せよ。



[解答欄]

(1)①A	②B	(2)A 縄文土器	B 弥生土器
(3) 狩り・採集から稲作へ変わった。			

[解説]

(1)(3) A の絵では、人々が狩りをしている様子が描かれている。狩りや採集で食物を得ていたのは縄文時代である。①の土偶は縄文時代のものである。

B は農作業を行っている様子が描かれている。稲作が本格的に始まったのは弥生時代である。

銅鐸などの金属器は稲作とともに大陸から伝わったものである。

(2) A の縄文時代に使われたのは、縄目の文様のはいった縄文土器である。B の弥生時代に使われたのは弥生土器である。

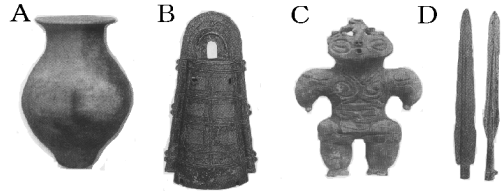
弥生時代と縄文時代の違いをまとめると次の表のようになる。

	縄文時代	弥生時代
生活	狩りや採集が中心	稲作
道具	縄文土器  土偶 	弥生土器  銅鐸 
住居など	たて穴住居、貝塚	たて穴住居、高床倉庫
遺跡	三内丸山遺跡	吉野ヶ里遺跡

[問題 2]

次の文を読み、後の各問いに答えよ。

- I 今から約 1 万年前に氷河時代が終わり、ほぼ現在の日本列島ができた。人々は、表面に縄目の文様がついた (①) 土器を作り、(②) と呼ばれる住居で暮らした。
- II 紀元前 4 世紀ごろ、大陸から渡来した人々により (③) が伝えられた。青銅器や鉄器などの金属器も同時期に伝わり、(④) という土器も作られた。



- (1) 文中の①～④にあてはまる語句を答えよ。
- (2) 文 II の時代と関係ないものを右の A～D から 1 つ選び、記号で答えよ。

[解答欄]

(1)①縄文	②たて穴住居	③稲作	④弥生土器	(2) C
--------	--------	-----	-------	-------

[解説]

- (2) A の弥生土器、B の銅鐸、D の剣や矛は弥生時代のものである。C の土偶は縄文時代のものである。

[問題 3]

次の①～⑤の文が、縄文時代のことを表しているなら「J」を、弥生時代のことを表しているなら「Y」を、縄文と弥生の両方の時代を表しているなら「JY」を、縄文と弥生のどちらの時代でもないなら「X」を解答欄に書け。

- ① 住居はたて穴住居という形のものだった。
- ② 土偶が使われていた。
- ③ 大陸から九州北部に稲作が伝わり、東日本にまで広がった。
- ④ 磨製石器はまだ使われていなかった。
- ⑤ 代表的な遺跡の 1 つに吉野ヶ里遺跡がある。

[解答欄]

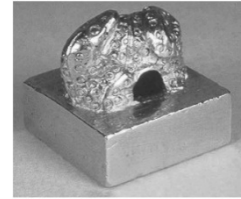
①JY	②J	③Y	④X	⑤Y
-----	----	----	----	----

[問題 4]

右図は、奴国の王が中国の皇帝に使いを送ったときに、皇帝から授けられた金印である。

- (1) 当時の中国の名を答えよ。
- (2) 当時の日本は、中国側から何と呼ばれていたか。
- (3) 金印には何と刻まれていたか、漢字 5 字で答えよ。
- (4) 金印が江戸時代に発見された場所を次から 1 つ選べ。

〔 野尻湖 志賀島 岩宿 三内丸山 〕



[解答欄]

(1) 後漢	(2) 倭	(3) 漢委奴国王	(4) 志賀島
--------	-------	-----------	---------

[解説]

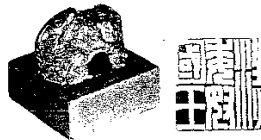
〔漢書地理志〕

紀元前後、倭には100あまりの国

〔後漢書東夷伝〕

57年 倭の奴国の王が後漢に使者

→金印(漢委奴国王) 志賀島(福岡市)



稲作がさかんになると、社会のしくみも急速に変わり、小さな国々ができ、人々を支配する豪族や王が出現した。漢の歴史書の漢書地理志には、紀元前後のころ、倭(日本)には 100 あまりの国があり、なかには、中国へ使いを送る国もあったと記されている。

また、57 年には、倭の奴国の王が、後漢に使いを送り、後漢の皇帝から金印を授けられたことが後漢書東夷伝に記されている(剛な(57)る奴国王)。この金印は江戸時代に現在の福岡県福岡市の志賀島で発見されたが、このことから、奴国は九州北部にあったと考えられる。

金印にほられた「漢委奴国王」は「かんのわのなのこくおう」と読む。

(金印では「倭」ではなく「委」の文字が使われている)

[問題 5]

次の各問いに答えよ。

中国の記録によると、その国は、もともと男子を王としていた。その王の時代が 70～80 年続いた後、倭国は乱れ、a 長い間戦いを繰り返した。そこで、1 人の女性を王とした。倭の女王の使いが中国の皇帝におくりものをしたいと申し出た。皇帝はおおいに喜び「私はあなたに好意を持った。そこで、あなたを(b)となし、金印を与える。」

- (1) 下線部 a の女王とは誰のことか。
- (2) 下線部 a の女王が治めていた国を何というか。
- (3) b にあてはまる称号を漢字 4 文字で答えよ。
- (4) 使いを送ったことで、中国からは金印のほかに何が授けられたか。次の[]から 1 つ選べ。

[銅鏡 銅剣 銅矛 銅鐸]

- (5) (1)が中国に使者を送ったのはなぜか。

[解答欄]

(1) 卑弥呼	(2) 邪馬台国	(3) 親魏倭王	(4) 銅鏡
(5) 中国の皇帝に王として認めてもらうため。			

[解説]

[魏志倭人伝]
239年 邪馬台国の卑弥呼
が魏に使いを送る

3 世紀になると、中国では後漢が滅び、魏・蜀・呉の 3 国に分かれていた。魏志倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が倭の 30 あまりの小国を従えており、それらの国々では、すでに身分のちがいが生まれていたこと、239 年に卑弥呼が魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」という称号と金印を授けられ、銅鏡 100 枚などの多くのおくり物を受けたことが記されている(卑弥呼より文(23)く(9)る)。卑弥呼が使いを送ったのは、中国の皇帝に王として認めてもらうためであった。

[問題 6]

弥生時代後半の有力な王たちは、なぜ、中国に使いを送り、金印や称号をえていたのか。

[解答欄]

先進的な文物を入手し、中国の皇帝に王として認めてもらって国内での立場を高めるため。

[解説]

当時の倭国の王たちが、中国に使いを送った理由としては、第一に、すでに高度な文明を築いていた中国の文物や技術を取り入れるためであった。第二に、互いに競合していた倭の小国の王たちは、中国王朝の権威を後ろ盾として、国内での立場を有利なものにしようとしたと考えられる。

[問題 7]

日本の弥生時代ごろの歴史が、なぜ、日本の国の歴史書ではなく、中国の歴史書でしかわからないのか。

[解答欄]

弥生時代には、まだ文字が使われていなかったから。